

金山町 議会だより

第189号

平成27年5月19日

発行 金山町議会

編集 議会だより編集特別委員会

〒968-0011

福島県大沼郡金山町大字川口字谷地393

☎ 0241-54-5341



岩城光英参議院議員に「只見線早期全線復旧」を要望する五ノ井議長（菅家一郎衆議院議員 同席）

〔3月定例会のあらまし 会期／3月6日～12日〕

（ページ）

3月定例会 平成27年度当初予算を可決……………	2～5
条例の制定、人事、臨時議会、要望活動、議会報告会…	6～10
一般質問に9人登壇……………	11～19

前年比 4 億1,838万円(11.4%)減

75万円を可決

3月 定例会



2 度目の入寮式を迎えた若桐寮 自己紹介の様子

3 月定例会は、3 月 6 日から 12 日にかけて開催されました。平成 27 年度当初予算など 40 の議案と報告 1 件、職員の通勤手当を改正する議員提出議案 1 件が提案されました。人事案件の 2 件を除き原案どおり可決・同意しました。平成 27 年度一般会計予算は、歳入歳出とも 32 億 4 375 万円で、前年度比 4 億 1 838 万円の減となっています。一般会計には 9 人の議員が登壇し、町政をただしました。

一般会計の概要

大型事業の減少

平成 27 年度一般会計当初予算は 32 億 4 375 万円で、前年度と比較して 4 億 1 838 万円(11.4%)の減となっています。

減額の主な要因は、豪雨災害の復旧事業が概ね完了したことや、川口地区に整備した町営住宅や開発センターの耐震補強大規模改修工事等の大型公共事業が今年度は少ないためです。

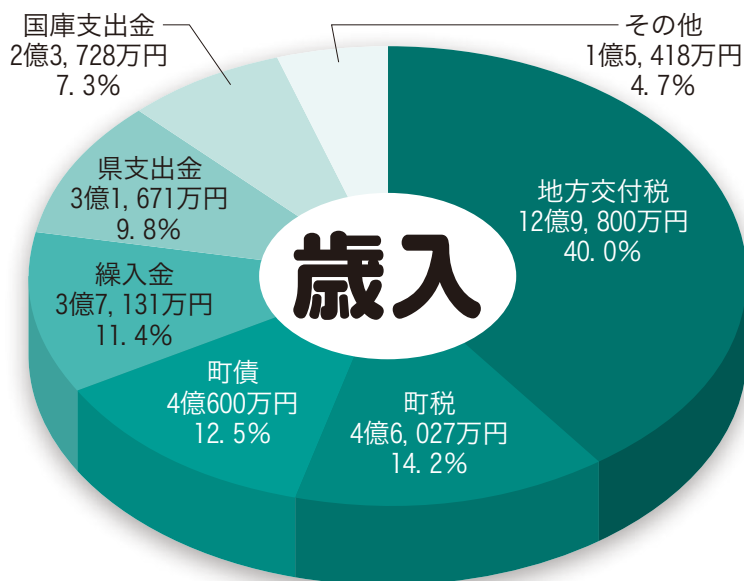
町税の微増 地方交付税の減少

前年度と比べ、歳入については、豪雨災からの復旧工事等の受注増により業績が増えたことによる町内事業所の法人税が、

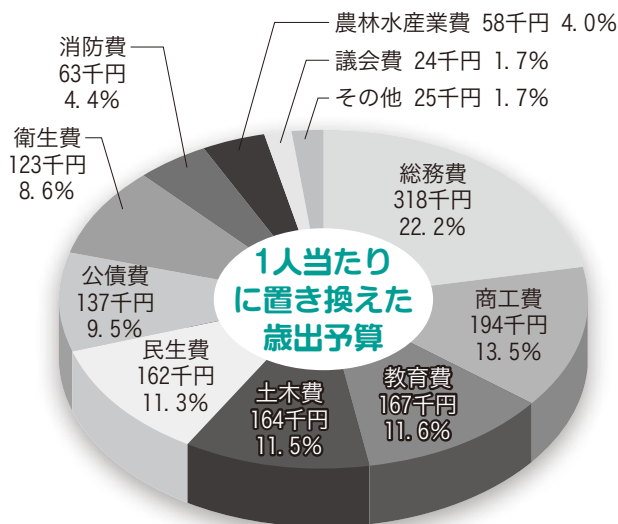
270 万円の増。発電事業者の設備更新等による大規模償却資産に係る固定資産税が、2500 万円の増。地方交付税とその振替分の臨時財政対策債は、合わせて 1 億 700 万円の大幅減。繰入金は、只見川豪雨災害復興基金からの充当事業減で、3 億 2000 万円の減少。財政調整基金繰入は、2300 万円の減になっています。

保養センター改築 2 億 8000 万円

歳出の内、投資的事業は、保養センター改築 2 億 8000 万円、町営住宅建設 1 億 1000 万円等です(主な投資的事業参照)。その他としては「若桐寮」維持管理費に 4347 万円。福島県只見線復興基金事業に 3451 万円等があります。

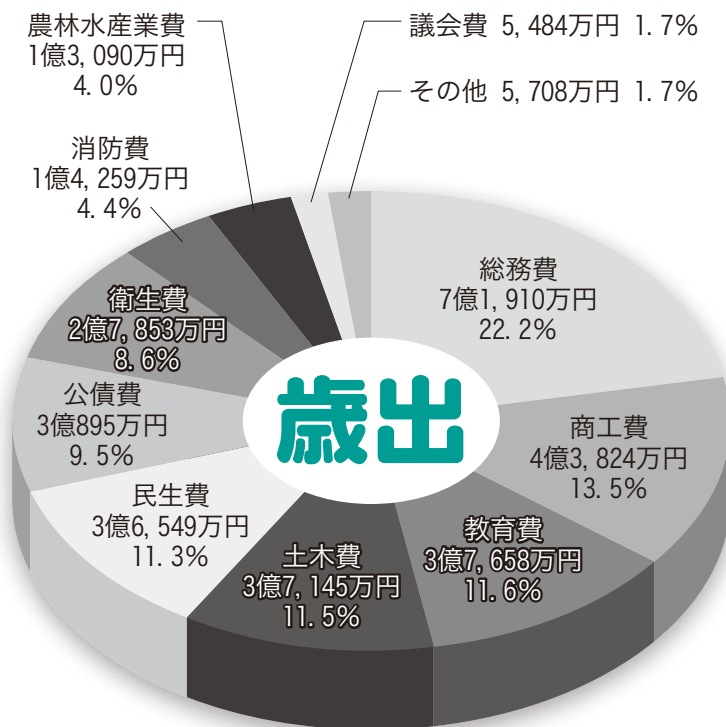


町民1人当たり 1,435千円の予算 (一般会計)



平成27年4月1日現在
(外国人含む) 2,261人

平成27年度一般会計 32億4,3



主な投資的事業

事業名	事業費
保養センター改築工事	2億8,000万円
町営住宅建設整備事業	1億1,000万円
川口高校学生寮(若桐寮)リース事業	6,000万円
ラジオ中継局建設工事	5,650万円
太陽光発電設備整備工事(福祉センター)	3,530万円
大塩地区公衆トイレ整備事業	3,020万円
防災用備蓄倉庫建築事業	3,000万円
町道中川・大栗山線改良工事	3,200万円
町道維持修繕工事	3,013万円
ポンプ車購入事業	2,506万円

平成27年度特別会計予算(当初)

特別会計名	平成27年度 当初予算	前年度比 増減額
国民健康保険事業(医療費等)	4億5,864万円	5,997万円
国民健康保険施設(診療所運営)	1億3,608万円	842万円
介護保険	5億4,057万円	4,102万円
後期高齢者医療	4,617万円	△147万円
町営バス事業	1,756万円	41万円
簡易水道事業	3億2,983万円	5,675万円
農業集落排水事業(田沢地区)	380万円	△1万円
特定地域生活排水処理事業(合併処理浄化槽)	1億6,545万円	4,347万円
特定環境保全公共下水道事業(川口地区公共下水道事業)	2,995万円	569万円

介護保険

3年ごとに作成する介護保険事業計画に基づき
平成27年度からの保険料が変わります。
新しい保険料(基準額)は、月当たり1150円、
23・7%アップの6000円になります。

当初予算（議案審議）

職員の健康管理 業務量増大

問 役場職員は定数減の中で豪雨災からの復興や

地方創生など膨大な仕事量になっている。心身的なストレス解消を含んだ健康診断が必要と考えるが。

答 全国的に見れば精神的に追い詰められ、仕事を休む事例が多いと理解しています。町でも、講習会などに出席をしています。精神疾患による休職者が出ないような対策を十分検討していきたいと思っています。

超過課税0・3% 可視化すべき

問 固定資産税1・7%の内超過課税分0・3%の金額は、いくらで、どのように使っているのか。

答 土地が約350万円。家屋が約810万円。一

般償却資産分約118万円。大規模償却資産分約

5359万円です。住民福祉の充実に活用しています。

問 「こういう事で使うために私たちは0・3%上乘せして払っている」と分かるような形にしたほうがいいと思う。住民に可視化する考えは。

答 今後、そのような形にできるように検討して行きます。

最終処分場の廃止 今後の負担は

問 旧衛生処理組合の最終処分場委託料148万円。場所と工事内容は。

答 三島町滝原にある最終処分場の閉鎖をするための調査をする委託料（金山町負担分）です。4町村（柳津町・三島町・金山町・昭和村）合計額は550万円です。

問 今後の見通しは。

答 27年度は、最終処分場を廃止することに向けた「調査と計画立案業務」

農林業系廃棄物処理加速化事業 何をするの

問 農林業系廃棄物処理加速化事業国庫補助金とは、今まであったのか。

答 今年度限りの補助金です。

問 何を処分するの。

答 町内にあるキノコのホダ木で、原発災害によって、基準を超過している

ので処分できないため、保管しているものがあります。それを環境省の補助事業により処分します。

問 保管場所はどこ。

答 太郎布地区1カ所。西谷地区1カ所。上横田地区1カ所の合計3カ所です。

問 ホダ木の供給先は。

答 福島市の松川地区と石川町です。

問 3月11日に原子力発電所が爆発した。その爆発で被曝し、放射能に汚

染されたホダ木を、松川地区と石川町から購入してきたと私は聞いています。

問 ホダ木を持ってきた方については、その当時の基準を超えていることは当然知るよしもないので、持ってきた方に非

はないと思います。

問 県の補助事業は、23年度からあった訳だが、なぜ今まで処分しないで、今回なのか。

答 県の補助事業を利用して廃棄物を利用する場合、会津管内でその廃棄物を受け入れてくれる事業者がなかったといった事情がありました。しかし昨年度、国から声をかけていただいた分については、何とか廃棄物の処理事業者が見つかりそう

だという事情です。

問 デステイネーションキャンペーンを控えて、これから人を呼び込むという状況の中で、金山町に汚染されたホダ木があ

って、それをどういうルートで運ぶのかわかりませんが「風評被害」、これをどのように認識されているのか。どういった風評被害が考えられるのか。

答 放射能問題については、慎重に真剣に協議をして、予算を出して欲しかった。影響が無いように配慮できる部分はしたいと思っています。

問 「風評」影響はないという話だが、風評被害は今だ根強い。「東京電力の汚染水の垂れ流し」、あれが放映されるたびに、国道252号あるいは40

0号を通る車は減っている。これは県の物産プラザの方も話していました。この問題が今一番困っている」ということでした。そういった中で、このホダ木を金山町から他町村へ運ぶというのは、普通の一般のごみを運ぶとは違います。放射能を

持っている物体を運ぶということで、慎重に対応願います。

問 町長 ホダ木を受け入れてくれるところが現実にはありませんでした。そこに昨年私が就任してからですが、11月ごろだったと思いますが、環境省、それから県から、

「実は会津管内で、これはまさに風評がありますから、これは町民には申し上げられませんが、そんなことで受け入れてくれるところができたものだから、ぜひとも今回の機に懸案のものがあれば処分していただきたい」というような話がありました。それで私も、環境省・県・町の間で協議をして何とかお願いするようになさせていただいたところ

です。なお、運搬等に関しては、これは決して放射能漏れのないように専門業者をお願いする予定です。

※紙面の都合で、この他の議案審議は、P7へ記載しました。

議事進行

問 環境省の農林系廃棄物の処理加速化事業実施要領で「農林業系廃棄物の最終処分先が明確でない事業は補助対象から除外する」と。また留意事項として「各市町村は本事業の実施に当たり、破

碎、破断設備施設、焼却施設、最終処分場及び搬入路などの周辺住民の理解を得るものとする」と書いてあります。この2点についての考えを伺う。
答 町長 この場では申し上げかねます。お互いに相手もあるものですか。議員の皆さんも理解

していただきたいと思ます。これは金山町から放射能に汚染されたホダ木を何とか排出したいわけですから、分かっているだけだと思うんですが。ようやく受け入れてくれるところができたわけです。それは規制には反しない程度のもので。

反対討論 五ノ井義一議員

金山町からは廃棄物が出るが、「どこに行くか分からない」との答弁です。町長は持つていく先は知っていると思いますが、持つていった先の町民も、あるいは市民も関係してくることで。放射能問題に関しては、もっと丁寧に時間をかけて、納得するまで議論をして採決するべきではないかと思います。運び込まれた先の住民の感情を無視した予算です。ホダ木の下にあった土壌の放射能の問題もあります。

町民にとって当初予算は、金山町の1年間を担う予算であることは私も重々承知しています。しかしながら町長の考えは変わりません。よって私はこの当初予算には反対します。

反対討論 黒川廣志議員

金額的に少ないかもしれないが予算を出して、実施するわけだから、町民にこれは公にすべきだ、「明らかにどこの処分場に持つて行って、そういうことにするから、予算をこうしてください」ということなら分かるが、臭いものにふたじゃないけれども、こういう形でこの予算、とりわけ放射能廃棄物の処理について押し切ることに対しては、私は町民の皆さんに「こういうことに決まったよ」ということをお話しできません。そういう意味で私は27年度の予算については反対します。

賛成討論 馬場清次議員

賛成の討論という議長の話ですが、本予算を今まで審議してきたわけです。その中において先ほど来、反対討論が2名の方からありました。私もこの案件に対しては明らかに町長の答弁がされていないという点では反対です。

ただし、平成27年度の当初予算です。本日の会議の中で、ただ単に賛成反対ということは当然必要ですが、町長にこの案件についてだけはもう一度凍結なり、執行に当たっては議会の承認を得るという形の中で、私は一般会計について承認したいと考えています。

賛成討論 高橋信彦議員

当局の説明によれば基準的に8000ベクレル以下のものではあれば合法的に焼却できるということであり、また23年の12月に計った数値では最も高いもので1500ベクレルだと。その後、時間の経過とともに放射能も減っている。ただ今何ベクレルあるか確認はできないが、トータル的に規制値以下であるというのは容易に想像できる。非常に難しい問題だとは私も承知はしているが、27年度の一般会計予算を、これを理由に否決というふうには私は、判断できません。先ほど馬場議員から話があったように、町長が何らかのしつかりとした手を打ってくれるものであり、また法的拘束力はありませんが、議員の皆さんの大多数の思いも酌んでいただいて、実行に当たってはそれなりの施策をしつかりしてもらえらるものと大いに期待をし、今回は賛成に投じます。

議事進行

問 今、賛成討論・反対討論、2人ずつあります

ですが、町長に、再度発言を求めます。
答 町長 この予算についてはこれから皆さん方によく説明をして、納得していただけるまで執行

しないということでは、どうでしょうか。その上で平成27年度当初予算につきましては、ぜひとも皆さん方のご理解を賜りたいと思います。

職員の通勤手当改正

議員提出議案 上限額を引き下げる

3月定例会では、議員提出の条例改正により職員の通勤手当の引き下げが行われました。改正内容は、上限額を4万4900円から1万4300円に引き下げるものです。なお、今回改正した上限額は町内通勤の最高額に合わせたものです。



議員提出議案の採決の様子

趣旨説明

提案者 五ノ井義一議員
今回、通勤手当の改正をすることにより町職員の町内定住を誘導し、金山町が進める「若者定住・定住促進・少子化対策事業」を推進させるため、本条例を改正する。現在、職員の2割が町外から通勤している。この状況を放置すれば、ますます町内在住職員が減っていく。防災体制や選挙事務等においても支障が出るのではないかと危惧する。また、今回の通勤

手当の改正に合わせ、町等を実施し職員の負担には町内移住を希望する職員 ならないような取組みを員に対し住宅のあっせん 望みます。

■反対討論 青柳靖美議員

本来、地方公務員法の中に規定されている、勤務労働条件の部分については、使用者と労働者が協議をし、その決定したものを条例提案するのが従来の慣例になっています。そこに議会が条例の改正ということで介入するということについては、地公法上でもあり得ないと考えています。そして、居住権は法に認められたものですから、それについて、勝手に議会で居住権まで制限するような条例の改正をするのはいかがなものかと思えます。このように改悪されれば、町外採用者の冷遇措置となって応募者が少なくなる懸念もされます。

■賛成討論 高橋信彦議員

この案件は本来町当局から提出されることが望ましいことと考えています。今までも各議員から幾度となく指摘されてきましたが、改善される様子がなく、今回、議員提出議案となりました。提出に先立ち、住民の意見を聞き、関係機関とも相談の上、違法性なしとの結論を得ました。よって、今回提出に踏み切ったわけであります。待ったなしの災害対応のためにも、職員の町内在住が望ましいと考えます。



条例の制定・一部改正

3月定例会では、条例の制定や改正等が行われました。主なものをお知らせします。

◆金山町只見線にみんなで手をふろう条例の制定

只見線の全線復旧に向けて、町を上げ応援していく姿勢を示すために条例を制定しました。

◆地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備等に関する条例の制定

法律の改正により、教育委員長と教育長を一本化し、新たな責任者として新教育長をおくこととする制度の変更と、関連する条例の整備を行う条例です。新たな制度では、教育長は町長が選任し議会の同意を得て任命することになります。

当初予算（議案審議）

マイナンバー制度 個人情報流出が心配

問 マイナンバー制度に対して、情報流出に対する危機管理は大丈夫か。

答 税情報を始め、個人情報を一括管理します。法律に基づいて国の責任でシステムを構築します。

人事

▼副町長

空席になっていた、副町長に山内健史（やまうち たけし）氏（福島県から派遣・43歳）を選任することに同意しました。任期は4月1日から4年間です。

▼教育長

▼監査委員

任期満了となる教育長の選任と、監査委員の後任の任命については同意しませんでした。

ので、国の指導等を十分に遵守しながら、「個人情報」の漏えい等があつてはならない」ということで業務を行ってまいります。

会津バス「大芦線」 経費負担増加した

問 大芦線バス運行経費が年々上がってきている。25年304万円、26年581万円。27年624万円。今後の見通しは。

答 町営バスの乗り入れなど現実的に可能性はあると考えています。昭和村と検討していきます。

尿酸値が高い 住民検診に追加

問 住民検診に町単独で、「貧血と尿酸値」の検査が入っている。「尿酸値検査」については、なぜ追加になったのか。

答 検診の結果、町内に尿酸値が高い人が相当数いるということで、27年度から検査を追加しました。

老人クラブ活性化 事業良い取り組み

問 老人クラブ活動活性化事業45万円。良い取り組みだと思う。老人クラブ連合会に任せきりにしないで。活動を広報して。

答 老人クラブと連携し、健康増進活動や広報活動に努めます。

部落水道 要望に支援

問 萩付水道組合施設修繕44万円。部落水道の形で利用されていた水源は他にも幾つかあると思うが、基本的には要望があれば修繕費は出すのか。

答 町要綱で「5戸以上」と規定しています。該当する場合は補助します。しかし、補助率（2分の

1)の面もありますので
地元の経費負担を考
え利用は少ないと思
います。

道の駅実績は 対前年比 1100万円増

問 緊急雇用(特産品流通販売開発支援事業)の委託先は、道の駅が実績上がらないようだ。

答 道の駅は、昨年同期と比較し約1100万円売り上げが伸びています。施設としては努力していると評価しています。

問 農産物の売り上げが伸びていないようだ。

答 25年4月に開設しました。その当時約30名の農作物出品者の登録がありました。ただ登録者のうち全てが出品するわけではないので、1年目は確かに出品者が少なかったですが、2年目平成26年度については少しずつ出品者が増えています。今後は、町としても出品者を増やすべく野菜づくり講習会等を開いたり、

もっと各地に出向いて「出品の声かけ」をしながら出品者を増やしていくように施設側に要請をしたいと思っています。

観光物産協会 活動が見えない

問 金山町観光物産協会補助金26年度大きく伸びたわけだ、「組織づくりをする」という説明だったが、どういう組織ができたのか、事業はどうなったのか。25年度から26年度にかけて観光物産事業はどう変わったのか、誰もわからない。今年は700万円から27年度予算に940万円と、非常に大きく伸びている。「物産展をやるんだとか交流人口を増やすためのツアーをやるんだ」とか、そういう抽象的なことではなく、きちんとした年次計画を立てながら、いつどういう形でその事業をするんだと、そしてそれを時期が過ぎたら検証しながらどうだったのか、そ

ういう部分をきちんと出さないと、お金をどこに使っているのか全然見えなくなってくる。

その辺をきちんと考えた事業推進をしていただきたい。

26一般会計補正予算(議案審議)

地方創生予算は これだけか

問 地方創生関連で、5319万円補正されているが、金山町の該当はこれだけか。

答 地方創生としての事業を全て集めたものです。事前に国から示された金山町の限度額は約240

答 専従職員をもう1名増やしなから、議員おっしゃるように観光物産協会としての本来の活動ができるように、町から話をしていきます。

2月18日 第1回臨時会

第1回臨時会では、平成26年度一般会計補正予算について審議され可決されました。内容は除雪経費の増額補正で、町道・歩道除雪委託料5200万円、修繕料800万円などです。

3月26日 第3回臨時会

第3回臨時会では、監査委員の選任に関する同意と平成26年度一般会計補正予算について審議され同意・可決されました。補正予算の内容は、豪雪により増額した町道除雪委託料1800万円です。

人事

監査委員に渡部氏

金山町監査委員に渡部喜市氏(本名・69歳)を選任することに同意しました。



全国町村議会議長会表彰 五ノ井議長と長谷川議員が受賞

この度、全国町村議会議長会から五ノ井清二議長と長谷川菊夫議員が功労者として表彰されました。五ノ井議長は議会議員在職27年以上、長谷川議員は15年以上、地方自治の振興発展に尽力されてきた功績によるものです。

只見線の早期全線復旧 本名バイパス整備促進 只見川河川整備計画の早期実施

3月19日に衆参議員会館（東京都千代田区永田町）を訪ね、国会議員へ「只見線早期全線復旧等」の要望活動を実施しました。



菅家一郎衆議院議員と協議の様子「壁には只見線応援のポスターが」

国会議員へ要望

▶吉野正芳衆議院議員に
要望



▶森まさこ参議院議員に
要望



▶亀岡偉民衆議院議員に
要望



▲佐藤信秋参議院議員に要望

▶金子恵美衆議院議員に
要望



▼要望先国会議員
衆議院議員
菅家 一郎氏
小熊 慎司氏
亀岡 偉民氏
玄葉 光一郎氏
根本 匠氏
金子 恵美氏
吉野 正芳氏
▼参議院議員
岩城 光英氏
森 まさこ氏
増子 輝彦氏
佐藤 正久氏
若松 謙維氏
荒井 広幸氏
佐藤 信秋氏

議会報告会

議会では、定例議会終了後に議会報告会を開催しています。今回は、12月定例会後に開催した川口地区、越川地区、水沼地区での参加者の声を紹介します。

有意義な報告会

川口区長 栗城篤義さん
大変有意義な報告会でした。

ご苦労さまです。



2月16日に開催した川口地区報告会
川口・小栗山地区対象

車座になったの報告会

五ノ井忠道さん（水沼）

報告会で色々な情報を教えて頂きありがとうございます。

会場が議会側と地区住民が向かい合う格好での報告と懇談となりましたが、向かい合った形だとしても、私たちは要望する側、私たちは答える側と言うようになってしま



2月23日に開催した水沼地区報告会
水沼・上大牧・下大牧・高倉・大栗山・福沢・三更地区対象

いがちで、突っ込んだ「建設的な話し合いの場」になっただけに感じました。相対するのではなく、議会側と地区住民は、ぎくばくするような形で話し合いが出来るようになれば良いのではないかと思います。肩肘張らない、話の出やすい雰囲気作りとして車座になったの報告会でも良いのではないかと感じました。

只見線は絶対必要だ

横田義一さん（越川）

議員の皆さま、大変御苦勞様です。老いても町政を知ることが出来、大変喜んでいきます。只見線の開通はぜひ必要だと思っていますので、再開に向けて頑張ってください。越川地区の懇談会では、代行

バスに対して、停車場を増やしてもらいたいことや、待合所が欲しいことなどが話されました。出来る事からお願いしたいと思っています。そして、只見川の改修を速やかに実施して、安心して生活できるようにしていただきたいと思います。



2月20日に開催した越川地区報告会



買物弱者対策を実施する町商工会



五ノ井義一議員の 一般質問

『町内交通をどうする』

交通体系をしっかりと考えて行く―町長

問 交流人口の拡大に向けた具体的な取り組みのうち、町内交通に関してどのような考えをお持ちなのか伺う。

答 町長 乗り合いタクシーと町営バスのすみ分けを図りながら、各集落を回れるような交通体系を模索したいと思い、県の交通課とも協議を重ねてきましたが、まだその

実現には至っていません。引き続き今後の大きな課題として考えて行きます。

問 すぐにできるとは思わない。常に町内をバスが走っているような状態にすれば、観光客にも、

答 町長 この問題は、金山町にとって本当に切

実な問題で、交通の足がなくなつた人は家に閉じこもりがちになつてしま

の手段としてこの交通体系はしっかりと考えていかなければならない大きな問題だと思っています。議員が言われた通りで、その姿勢で取り組んで行きます。

『買物弱者対策は』

商工会も含め取組む―町長

問 地方創生先行関連事業ですが、住みよい地域づくりの企画費の中に、買い物配達サービス、委託料で、80万円計上されている。買い物弱者問題は私の持論とするところだが、ようやく町商工会でも補助金をもらって調べてみようというふうな運動が起こったように聞かれています。前々から私は買い物弱者問題取り上げていくわけですが、ようやく商工会ともこの問題で共有することができ

るようになりました。交通弱者の問題も含めて買い物弱者問題は、商工会・町・そして我々が一丸となつて買い物弱者に対する施策を進めて行くべきだと思ひますが、今後どのような形になるのか。

答 町長 ようやく「このままでは、まずいな」というところに行き着いたんだと思います。商工会がやらなければ、町がやらなければいけないというふう

助金の要請をしたところで、それが採択されたということですので、見守つていきたいと思っています。

問 今度の予算にも、妖精の里商品券補助事業、計上されました。毎年妖精の里商品券ということ

答 町長 全くその通りです。商工会に、地元商店の活性化も含めて、真剣に取り組んでもらいたいということを、申し上げてまいります。



毎年来ていただく除雪ボランティア

黒川廣志議員の 一般質問



『安全安心の町づくりの具体策は』

就任後間もない 今後充実図る―町長

問 町民が安全・安心に暮らせる町づくりについて伺う。

問Ⅰ 失われた活力を取り戻すため少子化対策・高齢者対策・交流人口の拡大の3つを再重点課題として具体策を講ずるとしているが①活力が失われた原因は何か②最重要課題をどう27年度予算に反映されるのか。

答 町長 ①人口の減少、少子高齢化の進展です。地方の活力が失われているのは全国的なことですが、根源は国の施策にもあるとも思われますが、各自自治体の政策によって差が生じているのも事実です。

問Ⅱ 失われた活力を取り戻すため少子化対策・高齢者対策・交流人口の拡大の3つを再重点課題として具体策を講ずるとしているが①活力が失われた原因は何か②最重要課題をどう27年度予算に反映されるのか。

答 町長 ①結果的にもう少し早目に設置すべきだったと反省が残ります。今後は適切な時期に設置するよう努めます。

問Ⅲ 高齡化で役員の成り手もなく集落の維持も困難になっていると聞く、どう活性化を図るか。

問 降雪期まで一定の方向性を出すという理解でよろしいですか。

問Ⅳ 高齢者共同住宅整備について年度内に一定の方向性を示すことになっているが、どうか。

答 町長 一定程度の方向性を示すために検討会を3回実施しました。施設利用の対象者等々について、さらなる慎重な検討が必要だということで27年度も引き続き検討します。

問Ⅴ 健康寿命延伸について①具体策を示された②いきいき生活倶楽部直営化の目的は。



只見線利用の観光客を待つ大型バス
(平成22年10月11日撮影)



長谷川菊夫議員の 一般質問

『地道に図れ 交流人口拡大』

今までと同じではダメー町長

問 交流人口の増加を事あるごとに話されるが、具体的な対策・方針は。

答 町長 現時点では総合的な政策をお示しできませんが、補正予算の中にも外部への情報発信等の事業費を計上しています。これらは将来の事業展開の第一歩であり、今後さらなる事業の充実を検討して行きます。

問 町長は交流人口の増

加と言われる。私は疑問だ。豪雨災害前、金山町に大型バス1日10台も来て、8000人くらいの交流人口があった。私は交流人口でなく通過人口だと思う。JRで来て、川口駅で乗りかえて行く。そのときに町民が「農協さ用足し行ったが、通行止めされた、迷惑だ」。これ、町民目線です。大型バス1台、金山に来て泊ま

るといったら1カ所で泊まるところ無い。そうやって、1カ所で泊まれる施設をつくった場合には、毎日あるわけでないから今度、維持管理、大変。だから、そういうことを考えないで、もつと地道に交流人口拡大を図ってもらいたいと思います。

答 町長 経済の活力を取り戻すには人が集まっていなければならない。炭酸の町、金山」でこれか

ら外部に発信していきま。人がここに泊まって少しでも長い間いてもらえ、そういう努力をしなればいけない。何も流れて行ってしまう。皆さんとも色々協議をしながら、あらゆる施策を講じて、本来に将来の金山町に希望が持てることをやっていかなければならないと思っています。

『理解できる職員の研修必要』

大きな志を持ってー町長

問 職員が町長の考えを理解できない事例が多々あるように思われる。職員の研修が必要と思うが、その考えを伺う。

答 町長 自治研修センターの研修を始めとする各種研修に参加したり、内部でも勉強会等を実施したりしています。私の

基本的な姿勢については、課長会その他様々な場において伝えており、各職員とも理解しているものと認識しています。

問 私は町長と2期8年くらい議員も一緒にやりましたが、中々町長の見識と、幅広い知識には同調というか理解できない

面が多々ある。町長は、職員や議員に対して、自分が発信すれば理解されると決めないで、相手の話も聞いて、「そういう見方もあったか」ということを心してもらいたい。

答 町長 私も、議員の皆さんも、職員も、みんなそうですが、やはり町

を担っていくためには大きな「志」というものを持つてやらなければならなと思っています。「よその地域に負けないような地域にするためにはどうしたらいいか」ということを常に考えながらやっていかなければならな

と思っています。



3月18日に行われた電力事業者の「安全対策説明会」

青柳精一議員の 一般質問



『水害が出ない対策を迫れ』

県・電力事業者に強く求める―町長

問 町長は私の質問に対して、国の激甚災害の指定を受けたから、自然災害だと答弁しておりますが、一方で風化もさせないとも答弁しております。単なる自然災害とするのか、ダム災害とするのかでは大きな違いが出てきます。町長も認めているように、ダムができてから大きな水害が、今度で4回も起きています。

ダムのできる前の只見川は、魚の宝庫であり、材木流しなどまさに生活の源でありました。これから町がやらなければならぬのは、今後二度と水害を起こさせないように、国・県・電力に対策を迫るべきだが何う。

答 町長 国の激甚災害

の指定を受けたから「自然災害だ」と言っているわけではありません。平成23年の災害は、異常な豪雨によりもたらされたものであることは議員ご承知のことと思います。土砂の堆積により被害が拡大した可能性はありますが、ダムが直接災害の

原因であるという見方は困難と考えますので、自然災害だと申し上げています。また、この災害を風化させないためには、この災害を基準とした今後の安全対策を図っていくことが最も重要だと考えています。町が今やらなければならないことは、

只見川流域に安心して住むためにはどうすればいいのか、地域の振興には何が必要なのかを前向きに考えることです。そのために県や電力事業者へ只見川の安全対策を強く求めるとともに町振興に向けた協力要請は引き続き行います。

『建設業労働者の待遇改善を』

町が直接指導は無理―町長

問 町長は就任あいさつの中で、町民が主人公の町政をつくると表明しておりますが、どのようにしてそのような町政をつくるのか。まず伺いたいのは現在でも、町内の最大の産業は建設業だと思いますが、町長はその建設業者のトップを長年勤めてきて、町の事業を受注する側から今度は発注する側に立つわけですが、町内で建設業

労働者の待遇は依然として低い、待遇改善についてはどのような対策があるのか、また町内では災害復旧工事等で忙しくて、公共事業等に手が回らない状況にはないのか伺いたい。

答 町長 雇用者の賃金などについて町で直接指導はできません。町で行っていることは、下請に出す場合の請負額の確認や建設業退職金共済制度への

加入状況確認、国の行っている待遇改善策などへの協力などにすぎません。町内業者の設計単価も、県の基準単価と同様に上昇していますので、今後従業員に支払われる賃金も上昇していくものと推測されます。また、業者の中では待遇を改善する動きも見られます。次に、仕事量の問題ですが、議員ご指摘のとおり、町内業者は個人

からの依頼まで手が回らないほど忙しい状態です。次年度以降については落ちつくものと推測されますが、仕事量が多いことはいいいことだと考えております。なお、町では、平成24年1月から50万円以下の工事について、建設業の許可がない個人事業者でも請け負うことができるよう工事契約方法の見直しを行っています。



国土調査の実施済み地区に設置された「国調杭」



馬場清次議員の 一般質問

『国土調査の実施は』

問 国土調査の実施は財政上や職員の減少等の要因で困難との考えが示され、現在取組みが中止されたままです。豪雨災害の復旧も進み、新たな河川整備計画も具体化され、その実施については当然境界等の問題もあります。また、空き家対策取り組みも、隣地問題があります。早急に取り組むが必要と考え伺う。

問① 国土調査は町が実施。
答 町長 事業実施をする主体は町ですが、議員ご指摘のとおり現在休止中です。実施時期については検討して行きます。
問② 実施に係る必要経費及び人員は。
答 町長 実施した場合、どの程度の経費が必要なのかも検討課題です。人員については、実施する

とすれば長期にわたり専属のスタッフが数名必要と考えています。
問③ 国及び県からの財源見込みは。
答 町長 補助制度があり、国で50%、県で25%、実施主体の町が25%負担という制度になっています。ただし、町の負担については特別交付税での支援措置があります。

問 平成20年12月の定例会で、国土調査の必要性について伺った経過があります。全く同じような答弁が繰り返される。どう考えるか。
答 町長 空き家対策や山林の整備とか、河川整備計画とか、土地関係が明確にならないと事業が進展しないと思っています。本当に前向きに考えて

いきたいと思っています。
問④ 近隣町村の実施状況は。
答 町長 三島町、柳津町が休止中。昭和村は未着手。只見町は、41年間をかけ、宅地と農地については終了しています。
問⑤ 農地の移動要件は。
答 町長 農地の権利移動等については、農地法の基準により対応することになります。

『地方創生関連事業（妖精の里商品券発行事業）は』

町民に広く行き渡らせる―町長

問 地域消費喚起・生活支援事業として実施予定の妖精の里商品券発行事業について伺う。
問① 発行目的・時期・金額・購入先は。
答 町長 国の政策に基づき、地域消費喚起・生活支援・地域経済の活性化の目的で、平成27年4月から9月末までを使用

期間とし、4000万円分を発行し、プレミアム分を20%の800万円とするものであり、購入先は従来の妖精の里商品券と同様で事業主体の金山町商工会です。
問② 既存の商品券発行事業との関連は。
答 町長 今回の補助事業については従来の妖精

の里商品券事業と趣旨は同様ですが、国の政策に基づき支援を受け、事業を拡充して実施します。なお、10月から来年3月までの後半期の発行は、従来どおり3000万円とし、プレミアム分も10%としたいと考えています。
問 補助事業だと、どうしても商工会会員の事業

にならざるを得ない。委託事業であれば当然商工会へ加入していない業者の方もこの事業に取り組める。委託事業でいいのではないか。
答 町長 商工会に、議員が言われた「町民に広く行き渡る方法を必ずとつてくれ」ということを町として強く求めます。

前向きに考えたい―町長



「元気でまっせ体操」で健康寿命延伸

青柳靖美議員の 一般質問



『ダム災害について』

安全対策を進めている—町長

問 二度とダム災害を起こさない対策を伺う①只見川流域河川整備計画の成果品、国の承認、実施時期②只見川の国、県、発電事業者の管理区分③水利権更新と各ダムの再稼働許可には安全の担保が必須条件。町要望事項、議会特別委員会提言、恒久的堆砂処理計画など安全を担保する協定の締結

答 町長 ①県は2月末に国へ変更認可申請。早くて2カ月程度で承認。実施については国の認可承認と同時に並行で進んでいます。新年度、早急に地区の説明会を実施する予定②法指定区間として県が河川管理者の指定を

受けています。ダムの許可権は国。発電事業者は、ダム下流については放流影響範囲、上流については洪水時の湛水影響範囲まで管理区間。自然水位区間は県が管理③必要があれば議会のご意見も伺いたいと考えています④必要性は県に説明していますが、対象とする範囲が広大で県単独では

できないこと、どのような対策が良いのか一概には決められないことなどから実現には至っていません。ダムへ流入する土砂対策には前向きですが、土砂の総合管理については新潟県も巻き込んだ流域市町村と発電事業者が一体となり、初めて実現するものと思われま

す。今後その必要性は強く訴えていきます⑤27年度に集落説明会を開催し、住民の手による手づくりハザードマップを作成したいと考えています。浸水区域図、土砂災害危険箇所等の基本資料はできています。今回の防災計画見直しは法令等の定めによる最低限のものですが、今後継続的に見直しを行って行きます。

『高齢者福祉・介護保険事業計画について』

国の方針に対応できるように考える—町長

問 介護保険法改正で、町の責務・役割が増大する①定期巡回など24時間対応は可能か。事業者との協議、町独自の検討、マンパワーの確保は「施設から在宅へ」が進む。訪問看護の対策は②地域包括ケアシステムの構築、地域包括支援センター、地域ケア会議との連携は

③介護支援専門員の充足、保健・医療・福祉の連携は④町事業となる訪問・通所介護の移行年度は。要介護3以上が入居条件となる。要介護1・2対策は。**答** 町長 ①24時間対応は難しいと認識。正式に協議ということは行っていないことですが、解決策を

見出せない現状。国の方針が施設介護から在宅介護へ移行している以上、町内のかねやま福祉会やグループホームとの検討、さらには広域的にも検討が必要との考えを持って

います。訪問看護については、県立宮下病院で実施。金山町も対象地域②37年度までに各市町村で構築。今まで以上に連携が必要との認識③充足等に関しては、今後の状況を見きわめたい。保健・医療・福祉の連携に関しては、今後の在宅介護の根幹をなすものと認識。検討していきます④29年度を予定。デイサービスやホームヘルパー等での対応が必要と考えています。



高速リフトでゲレンデに向かうスキーヤー



高橋信彦議員の 一般質問

『町営スキー場について』

利用者増えている 方向性を探る―町長

問 町営スキー場の存続は、町が目指す交流人口の拡大にとって重要な施設であると考えますが、一方で毎年多額の修繕費を要しています。固定循環式への変更等、経費のかからない方式への変換には、今や1億数千円

の費用がかかるものと思われま

断されるべきと思います。町長、非常に難しい問題だと思っています。平成29年度の事業として振興計画に1億1000万円計画しています。近年スキー人口が少し増えてきています。それから、柳津町がスキー場を廃止しました。スキー教室など教育関係事業でフェア

リーランドスキー場の利用頻度が増えてきています。そんな状況の中で平成29年度に高速リフトから固定リフトに切り換えた場合の費用対効果を検討しました。現在500万円から800万円の修繕費をかけながら運営しています、これが1億1000万円で切り替え工事をする場合、同じ金額

をかければ20年間近く今の修繕のままだと見ていくことが数字上では可能です。本場にこの高速リフトから固定リフトに切りかえて、今ようやく少しずつ客足が戻ってきているのに、時代に逆行した高速リフトから固定リフトに切りかえるというところでいいのかという気持ちを持っています。ト

ップセールスで営業活動する際にも高速リフトは必要だと思います。ただ、私も議員の時代は、「こんなに毎年修繕費をかけてどうなんだ」という気持ちを持っていました。29年度の事業計画ですから、議員の皆さんとも良く検討しながら、次の方向性を探っていききたいと思っています。

『入札制度について』

建設業の体力強化望む―町長

問 国策により、公共事業は減少の一途を辿ってきましたが、当町のような山間地域は自然災害に脆弱であり、冬期間の除雪作業に於いても建設業の必要性は不可欠であります。安倍政権の「命を守る公共事業」により、今後とも継続的な公共事業の発生が予想されますが、町発注

の事業はもとより、国・県の事業においても、町内に関する事業は出来る限り町内事業者で受注出来るように、国・県に働きかける考えがあるか伺います。

答 町長 大型工事になると、今の金山町の業者では手が出せない状況もあります。一時、建設業が氷の世界と言われたように

低迷した時期がありました。そういうときに人員も削減する、機械も減らしてしまふ。そういうことがあつて、平成23年の豪雨災害のときには本場に弱体化した状況の中で災害が起きたものですから、地元業者が手を出せないような状況が続きました。しかし、少しずつ回復している



平成22年に間伐を実施した林地

奥高伸議員の 一般質問



『森林整備で町の振興を』

希望が出てきた 計画を練っていく―町長

問 ①町の面積の92%が森林だ。しかし現在その森林はほとんど管理、手入れがされていない。自然災害の発生、有害鳥獣の増殖などの問題が懸念される、対策は。

答 町長 森林所有者が森林を整備しても「全く実入りにならない」、そういう状況が非常に長く続いてきました。その結果、手入れもされずに、山が荒

れてきたと思っています。

ところが近年、再生可能エネルギーが、大きくクロージアップされ、会津にも実際に木質バイオマスの発電所が稼働しています。その企業と連携すれば、必ずや生産者に対しても「実入りが出てくる」と、私は身をもって体験しています。建築用材としてのだけの利用から、木質バイオマスの発電所ができたことに

よって、これまで放置されてきた端材、あるいは細木、枝葉、そういったものも全て利用できる状況になります。燃料にする分の売上については所有者にほとんどが回るといふ現実があります。ただし、残念なことに、福島県にあつては、森林の伐採した端材、いわゆる葉とか枝、これについては放射能の関係でまだ活用できない状況になつ

ています。しかし、それが解決することによって、私は森林もこれからどんな整備できる状況があると思っています。

問 ②「森林林業再生プラン」など国、県には森林整備のための多くの制度がある。森林整備によって林業の生産活動を復活させ産業として雇用を生み出すこともできると思うが。

答 産業課長 国や県の

補助事業等について検討して行きます。

問 ③森林は国土保全、水源涵養、地球温暖化防止等、多くの公益的機能を持つ、自然災害の防止、有害鳥獣の出没の減少なども期待できると考えるが。

答 町長 地方創生に対する森林整備、それも一つの方法です。27年度はしっかりと計画を練って行きます。

『地域活性化には集落支援必要』

一体的に対策を進める―町長

問 ①少子・高齢化、過疎の進行が著しい。町の30行政区の多くで地域集落の活力が失われ行政区の自治活動にも支障をきたすところも出てきている。現状認識と対策は。

答 町長 ①少子高齢化でも「集落支援員」「地域おこし協力隊」などの制度を導入してきたが、どの制度も十分機能してきただとは思えない、認識は。③行政区と町との連携を図り、地区の共助力の育成と職員の意識改革を行うとした職員の「地区担当制」はどうなった。

問 町長 ①少子高齢化の問題が、地域活力の低下の大きな要因です。対策には、雇用の場を創出することが重要です。あわせて、少子化・若者定住対策、高齢者の健康寿命の延伸を図る対策を一体的に進めます。②実施していく中で、集落自体に

色々課題があります。「目的を定めて、集落の活性化を集落自身が行っていく」ことへの支援を進めていきましたが、中々それ後も後に続かなかつたということが現状です。③平成11年度から実施しました。課題解決の検討のため26年度は休止しています。

『健康寿命の延伸について』

「健康体操」と「食」で対応―町長

横田正敏議員の 一般質問



問 高齢になっても誰もが健康で長生きし、幸せを実感できる社会の実現を目指すため、健康寿命の延伸に向けてどのような取り組みをされるのか。

答 町長 平成27年度から町で直接実施するいきいき生活倶楽部の内容を体操主体とし、健康維持に取り組んで行きます。そのメインとなる「元気でまっせ体操」について

は、町内の全地域に普及できるように取り組みが必要と考えています。

問 「食は健康の基本」と言われるが、いつでも誰でも簡単に食事がとれる時代にあつて、町民の健康増進のために「食」に関する取り組みも考えていく必要があると思うがどうか。

答 町長 金山町では「エゴマ油を毎食採る」対策を立てたいと思います。αリノレン酸という成分が青身魚の油と同じ油です。私は人間の健康の源は血液であると思つていますが、血液をさらさらにする、それが一番健康につながるものだと思います。そ

れが、引いては、がんの予防にもつながります。最近のテレビでやっていましたが、エゴマ油は認知症に非常によく効くというデータがあります。町内の人たちが常に摂取できる体制をそう遠くないうちにつくって行きたいと思つています。

問 「健康寿命延伸」のためには、何と言っても保健師の役割は大きい。保健師といった、健康維持に携わる専門職を増員する考えはないか。若者定住にもなると思うがどうか。

答 町長 増員も含めて、人員の傾斜配分も考えていかなければならないと思つています。

『地方創生にどう対処するのか』

地域懇談会で意見集約―町長

問 長年重要課題として取り組みなから実現できなかった若者定住、地域の特性を活かした産業の創出による経済活性化などの実現のため、地方創生にどう具体的にに取り組む考えか。

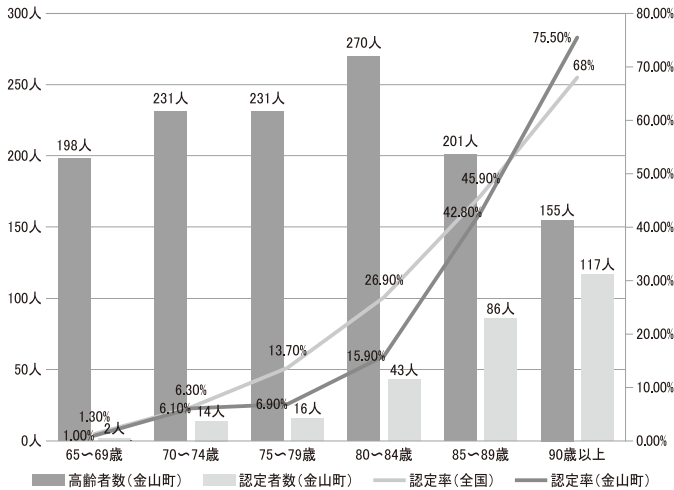
答 町長 新年度はまちづくりのランドデザインとしての振興計画後期計画の策定時期です。まずは将来の金山町のあるべき姿を見据えた振興計画をしっかりと定め、あわせて効果的な金山町版総合戦略を策定し、地方創生の政策を有効に実践していきます。地域懇談会を

役不足であれば、その周辺に金山町が今抱えている懸案のものを整備しながら、道の駅を地域を中心として機能するように、てこ入れします。

問 悲観して立ち止まるのではなく、可能性信じて、前に進むことが大切である。これまでにない危機感をもって、地方創生に取り組む必要がある。町長の強い決意を伺う。

答 町長 私もこういう立場に立ったわけですから、議員の皆さんも町民の付託を受けてこの場におられるわけです。町職員もそれなりの関門を突破してこの席にいるわけですから。我々は町民よりも一歩高いところに立って、知識と見識を磨きながら、町民の幸せを考えて行動し実践していかなければならないと思つています。

年齢階級別認定率(平成27年2月)



年齢階級別認定率(介護保険)
横田議員の提出した一般質問資料



「アレルギー」

埼玉に就職をし、10数年が過ぎた頃、「春風邪」をひいた。友人は花粉症だと言ったが、生まれた時から杉林に囲まれ、「スギ玉鉄砲」で遊んでいたのに、「スギ花粉症」にはならない自信があった。しかし、暫らくすると鼻水から目の痒みに症状が進み、病名は確定的になった。対応には苦慮したが、病院には行かず市販薬で対処した。困ったことは、居酒屋に行っても鼻がつまり、大好きな「気違い水」が飲めなく成る事であったが、数年で症状は自然に回復した。

先日、テレビで最新のアレルギー治療についての番組を見た。様々なアレルギーは1960年ごろから急速に増加していると言う。世界中の科学者が研究をしているが道は遠い。そんな中、20年前に日本人が発見した免疫細胞をコントロールする「Tレグ細胞」が注目され、現在多くの科学者が研究を重ね、臨床試験を繰り返している。

研究によると、小さい時から家畜や自然などに接し、「雑菌」を取り込んでいくと免疫系が自己学習し、後に攻撃すべき物質と無害な物質の判断が幅広くできるように成ると言う。生後3歳くらいまでに数多く種類の物を食べ、接する事が望ましいと言われている。「三つ子の食、百までも」かな？

行き過ぎた清潔な環境は、生物にとって逆効果となるようで、人間といえども自然界の一生物に過ぎない。健康で長生きしたいと誰もが望むところだが、親の関わり方が心身に重要である。

金山町において、町活性化のため、新町長がどのような特効薬を示してくれるか、大いに期待するところであるが、「臨床試験」には、町民そろって積極的に参加したいものである、明日のために……。

(高橋 信彦)

大塩地区炭酸井戸 ゴールデンウィークで賑わう

今年のゴールデンウィークは、ふくしまDCキャンペーンの効果もあり、連日大勢の観光客が訪れ、例年以上の賑わいを見せました。

この日も、多くの観光客が訪れ、炭酸井戸を珍しそうに覗き込んでいました。地元の大塩天然炭酸水保存会のメンバーが毎日日替わりで、観光客への説明に追われていました。



ごあんない

次回の定例会は、6月12日ごろ開会の予定です。

一般質問は6月15日ごろとなります。

お気軽に傍聴においで下さい。

○役場1階の受付で「傍聴券」を受け取り
4階の議場においで下さい。

〔発行責任者〕

議長 五ノ井清二

〔編集委員〕

委員長 奥 高伸

副委員長 青柳 靖美

委員 横田 正敏

委員 馬場 清次

委員 黒川 廣志

次回、金山町議会だよ

り第190号は、7月下旬ごろ発行の予定です。